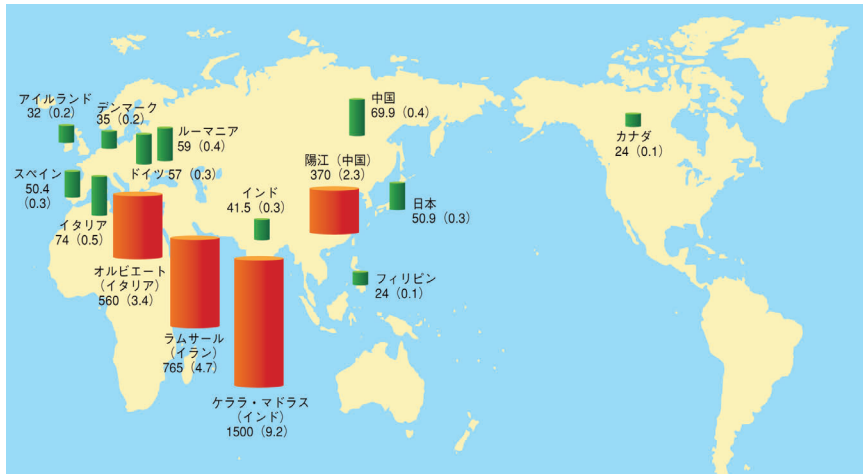


ナノグレイ/時（ミリシーベルト/年）

実効線量への換算には0.7シーベルト/グレイを使用



出典：国連科学委員会（UNSCEAR）2008年報告書、
（公財）原子力安全研究協会「生活環境放射線」（2011年）より作成

世界には、中国の陽江（ヤンジャン）、インドのケララ、イランのラムサルなど、日本より2倍から10倍自然放射線が高い地域があります。こうした地域で自然放射線レベルが高い原因は、ラジウムやトリウム、ウランなどの放射性物質が土壌に多く含まれることによります。

これまで高自然放射線地域として有名であったブラジルのガラバリは都市化によるアスファルト舗装の結果、空間放射線量率が減少したと報告されています。

中国やインドにおける疫学調査などから、これまでのところ、がんの死亡率や発症率の顕著な増加は報告されていません。ラムサルでは、がんリスクに関する解析が現在進められています。今後はこうした地域での生涯線量推定やそれに基づくがん死亡や罹患の過剰リスクや、非がん死亡の過剰リスクなどについても検討される予定です。さらに、各地域のデータの統合による、がんリスクの推定なども計画されています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2015年3月31日